

## 2025 年度外国語学部 FD 活動報告

(英米学科、スペイン・ラテンアメリカ学科、フランス学科、ドイツ学科、アジア学科)

外国語学部では 2025 年度の FD 活動の取り組みとして、10 月 1 日（水）15 時 30 分～17 時に G 棟 21 教室にてアクティブラーニングに関する FD 講演会を開催した。アクティブラーニングは、学生が主体的に授業に参加し、能動的に学ぶ教育方法として近年注目を集めており、積極的に取り入れている大学が少なくはない。外国語科目が多い外国語学部においてもアクティブラーニングが効果的であるか、実際どのように運用すればよいか。このような教員の関心と疑問に応えるべく「他者と交流し学びあうための授業デザイン」と題した外国語学部 FD 研修会が開催された。藤掛千絵先生によるご講演「国際共修としてのディベート」では、CJS の学生と日本人学生がともに履修する英語の授業でのディベート、森山貴仁先生によるご講演「アクティヴなディスカッションを目指して」では、学生がアメリカの映画などの素材を使い、語学力を上げつつ問題を発見するディスカッションの方法や成果などについて、それぞれご自身の実践についてご紹介いただいた。講演に先立ち、外国語学部長花木亨先生よりご挨拶をいただいた。講演後の質疑応答においては、講演者と参加者のあいだで、アクティブラーニングの実施に関する課題や問題点などについて活発な議論がなされた。斬新な教育方法や便利なツールなどの情報提供もあり、FD 活動にとって非常に有意義な講演であった。参加者数は 35 名であった。

2025 年度の各学科の FD 活動の詳細は以下のとおりである。

### 英米学科

1) Academic English A に関する FD 活動として計 3 回のミーティングを実施した。

- ① 7 月 29 日には、Q1・Q2 の授業の振り返りおよび評価基準の共有を行い、学生の成果物をもとに採点の標準化と、Q3・Q4 に向けた授業・教材改善について検討した。
- ② 12 月 18 日には、全クラスで実施した COIL の振り返りを行い、2026 年度の改善点について議論した。
- ③ 3 月 11 日には、FLEC と共同で策定した AI ポリシーについて共有し、各クラスでの運用方法の統一について検討した。

参加教員は、AEA を担当する専任教員 3 名である。

2) 推薦入試の選考基準について、面接と学力テストをどのように位置づけるかを学科会議で議論し、新しい基準を作成した。

### スペイン・ラテンアメリカ学科

- 1) 授業運営や事務手続きについて、学科会議等で情報共有を行なった。
- 2) 講演会・研究会を開催し、その後の意見交換で教員の研究意欲向上に努めた。
- 3) 学科必修のスペイン語科目、あるいは、その他の言語科目については、言語科目コーデ

イナーターを中心に、学科会議を通じて運営上の微調整を行った。

- 4) 新カリキュラムや科目の開講時期の変更について、その効果について学科会議で検討した。
- 5) 専攻制廃止を含めたカリキュラム改正について学科会議等で検討した。
- 6) 海外フィールドワークのやり方について、学科会議等で情報共有をした。
- 7) 演習の実施方法、研究プロジェクトの評価方法について、学科懇談会などを通じて議論した。
- 8) スペイン語劇の支援体制について学科会議で議論した。

### フランス学科

フランス学科では、(1) 教育制度の理解、(2) 教学マネジメントの枠組みで行われる各種調査等をふまえた教育課程編成の検討、(3) 授業運営の点検と方法の改善、(4) 学習支援システムの充実、(5) 研究と教育の調和をはかるシステムの構築等の活動を行った。

(1) に関しては、年間 20 回程度の学科会議のほか、FLEC 所属 LI 教員や非常勤講師を交えた複数回のミーティングを通じて教員間のコミュニケーションの促進を図り、履修規則、留学、単位認定の制度や国際共修のしくみ等について情報を共有することができた。(2) に関しては、アセスメントテスト、学習行動調査、IR データ等による調査結果等を共有しつつカリキュラムの見直しを行い、次年度以降の具体的な再編の検討につなげることができた。(3) に関しては、外国語学部主催 FD 講演会をはじめ、他部署が主催する FD 講演会等に各自が出席することで、国際共修やアクティブ・ラーニングへの理解を深めることができた。また、フランス語教育関連ではミーティングを通じて授業評価アンケートの結果の指摘を共有したり、コミュニケーションを充実させる授業づくりの課題を共有したりすることができた。さらに (4) に関しては、履修ガイダンスやオフィスアワーの継続のほか、海外フィールドワークの充実と留学の促進、TCF や DELF などの外部語学試験の集団受験の実施、外交講座やキャリア教育（「キャリアを考えよう」ならびに「学び方講座」）の実施、学生有志のフランス語劇の支援などにより、学生のフランス語学習へのモチベーションを引き上げ、学生が自律的に学ぶ姿勢を形成することができた。(5) に関しては、フランス語圏に関する専門的知識を有する専門家 3 名を海外から招聘して学生や教育スタッフの研究・教育支援に資する講演会を開催することができた。

### ドイツ学科

- 1) ドイツ語教育の質および教員の資質・能力向上のため、主にドイツ語科目を担当する教員を中心に定期的に情報共有・意見交換を行い、教員間の密接な連携を図った。連携には外国語教育センター所属の教員も加わり、学生の学習状況全体に目配りが届くよう努めた。
- 2) 海外フィールドワークについては、従来のデュッセルドルフとベルリンの二都市開催とした。また国際化推進の面では、複数授業で COIL 型授業を実施した。加えて、例年通りド

ドイツから学生2名を招聘し、ドイツ学科生と授業などを通じて交流した。東京横浜独逸学園 (Deutsche Schule Tokyo Yokohama) の生徒を招いた交流プロジェクトも実施した。

3) 毎年恒例となっているレクチャーコンサートを開催した。また、キャリア関連の講演会についても3回実施した。どの企画も内容の濃いもので、参加者にとっては貴重な機会となった。

4) 今年度は、愛知教育大学附属高校、中村高校、南山高校(女子部)、恵那高校でそれぞれ模擬授業を行った。音楽社会学、ドイツ語文学、外国語教育学、など多様な専門分野の教員が授業を行い、大学での学びを体験してもらう機会を作ることができた。

5) アクティブラーニング系の授業である「ドイツ語表現法」ではQ1の授業内で中京大学の学生との交流も兼ねてドイツ語による合唱を披露した。授業と連動した学外の活動としては、10月に半田赤レンガ建物で開催された「ドイツ・フェスティバル」で、公開ゼミを開催し、学科生のゼミ研究成果を一般の方々とも共有した。12月には、愛知県立大学で開催された第25回名古屋圏国公立大学インターゼミナールに中屋ゼミ生が参加し、他大学の学生とも交流をした。

6) 12月にゲーティンスティテュートのドイツ語能力試験を学内で実施した。5名が受験した。また年間を通してドイツ語能力検定試験の新規合格者は、各レベルの合計で42名となり前年より増加した。今後もこの人数を拡大していけるように学生への指導などを強化していきたい。

7) 学生の活動としては、ドイツ文化研究会やKreisが学科内の学生交流に主体的に貢献した。

## アジア学科

(1) 初年次の学科必修科目、とりわけ外国語科目と演習科目に関し、学科会議や担当者ミーティングの場でそれらの運用状況を報告するとともに、評価できる点、改善すべき点、受講生の学習状況等について意見交換をおこなった。(2) 専攻分けについて、1年次生に対する情報の周知やアンケート等の取り組みを徹底した結果、両専攻の学生数のバランスが昨年度に比べて改善した。(3) 「海外フィールドワーク A/B」の運営について、学科会議および専攻ミーティングで議論して効率的な形に改めるとともに、実施前・実施中に派遣先大学のスタッフと協議を重ねてフィールドワークの円滑な実施を心がけた。(4) Q4末に卒業論文判定会議をオンラインで開催し、学科で作成しているルーブリックに基づいて卒業論文の成績判定を客観的な形でおこなった。(5) 学科教員間および学科教員と非常勤講師との間で連携をとり、授業における学生の様子を随時把握しながら、必要に応じて学生指導をおこなった。また、授業運営についても学科教員と非常勤講師との間で随時連絡をとって意見交換をおこなった。(6) 学科特設 Web ページ、学科公式 Instagram での写真や記事の適宜更新に努めた。(7) インドネシア語スピーチコンテストを開催し、学科生の参加のみならず、学外から高校生および大学生の参加があり、盛会となった。(8) 中国・台湾およびインドネシ

アへの国費留学希望者に対する支援として、個別相談への対応をおこなった。また面接等、国際センターの業務への協力も継続しておこなった。(9) 輔仁大学の学生と SNS で交流するプログラムを今年度も継続して実施した。課外でのグループ単位や個別での交流に加え、1 年次および 2 年次の複数の授業内で発表・意見交換をおこなった。(10) 国際化推進事業として、輔仁大学から大学院生 2 名を Q2 に招聘し、招聘学生による授業運営補助を通して学科生の中国語運用能力の向上を図った。(11) キャリア教育の一環として、1 年生を対象とする学び方講座を Q1 に、2 年生を対象とするキャリア入門講座を Q3 に、3 年生を対象とするキャリア講演会を Q1 に実施した。いずれもアンケート結果から学生にとって有益であったことが見てとれた。